

かき灰色かび病に有効な防除薬剤							
[要約] <u>トップジンM水和剤</u> に対する <u>高度耐性菌</u> が高率に発生している <u>かき灰色かび病</u> 発生園においては、 <u>ゲッター水和剤</u> が有効である。							
生産環境研究所・病害虫部・果樹病害虫研究室						連絡先	092-924-2938
部会名	園芸	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	普及

[背景・ねらい]

近年、春先に降雨が続く年にかき灰色かび病が多発し、問題となっている。本病に対しては従来、うどんこ病との同時防除を兼ねてベンズイミダゾール系薬剤であるトップジンM水和剤の散布がなされてきた。しかし、近年、本病に対し本剤の効果が劣る事例が多発し、防除対策に苦慮している。そこで、本病に対して効果が高く、薬害のない薬剤を探索し、有効な防除法を確立する。

[成果の内容・特徴]

- ①県内各地のカキ園に発生する灰色かび病菌のトップジンM水和剤に対する耐性菌率は高い(表1)。
- ②ロニランドライフフロアブル、ポリベリン水和剤に対する耐性菌率は低く、ゲッター水和剤に対する耐性菌は全く検出されていない(表2)。
- ③平成2年、平成4年、平成5年の3ヶ年は無散布区の発病率が著しく低く、圃場における防除効果の判定ができなかったが、平成3年の試験結果ではゲッター水和剤の効果は高かった。なお、いずれの薬剤についても薬害は認められなかった(表3)。
- ④ゲッター水和剤には本病に対して高い病斑進展阻止効果があり、有効である(表4)。

[成果の活用面・留意点]

- ①ポリベリン水和剤、ロニランドライフフロアブルは、平成6年4月現在未登録であるので登録取得まで使用できない。
- ②ゲッター水和剤は連用すると耐性菌を生じる恐れがあることから、年間の使用回数は2回以内とする。
- ③病害虫防除基準に登載し、かき灰色かび病の防除に活用する。

[具体的データ]

表1 かき灰色かび病菌のトップジンM水和剤に対する耐性菌率の推移

調査年	調査地点数	検 定 菌 株 数	耐 性 菌 率 (%)
平成2年	15	108	72.2
平成3年	15	53	77.8
平成4年	15	56	60.7

表2 かき灰色かび病菌の各種薬剤に対する耐性菌率（平成4年）

供試薬剤	検 定 菌 株 数	耐 性 菌 率 (%)
ゲッター水和剤	117	0
ホリハリン水和剤	117	2.9
ロニラントライフロアブル	117	2.2
トップジンM水和剤	117	70.6

表3 かき灰色かび病に対する各種薬剤の防除効果

供 試 薬 剤	希 積 倍 数	発 病 葉 率 (%)				薬 害
		平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	
ゲッター水和剤	1000	1.3	8.6	0.1	0	なし
ホリハリン水和剤	1000	—	—	0.4	0.5	なし
ロニラントライフロアブル	2000	—	—	0.1	—	なし
トップジンM水和剤	1500	2.3	14.6	0.5	0.5	なし
無 散 布	—	2.0	25.8	0.5	0.7	

注) ①—は試験なし

表4 かき灰色かび病の発病葉に対するゲッター水和剤の病斑進展阻止効果（平成3年）

供 試 薬 剤	希 積 倍 数	調 査 葉 数	発 病 葉 の 病 斑 進 展 阻 止 率 (%) 2 日 後
ゲッター水和剤	1000	24	100
トップジンM水和剤	1500	31	51.6
無 散 布	—	31	0

[その他]

研究課題名：カキの灰色かび病

予算区分：経常

研究期間：平成5年（平成2～5年）

研究担当者：梶谷裕二、山中正博、山田健一

発表論文等：平成2～5年度生産環境研究所病害虫部果樹病害虫試験成績書